

令和2年4月教育長定例記者会見

【質疑応答】

≪新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策としての学校の臨時休業について≫

N H K 先ほど学校再開について、見通しが予測不能な状況とおっしゃったと思うんですけども、今のところ多く〔の学校〕は6日まで休業ということで、7日から再開できそうだという、7日からの再開についての御認識をお願いします。

教 育 長 新型コロナウイルス感染症の拡大は、日々状況が変化しておりまして、臨時休業の期間は今のところ5月6日までとしておりますけれども、大変申し訳ないのですが、再開に向けた見通しは、予測困難な状況となっています。いずれにいたしましても、子供の健康と安全を第一に考えまして、その上で子供たちの学習機会の確保をしていく観点から、学校の在り方、これについては、再開する、それから休業延長についても慎重に判断していく必要があると考えておりまして、県内の感染状況、それから感染症対策の専門家の御意見を踏まえながら、関係部局とも相談しながら、できるだけ早い段階で、ゴールデンウィークにも入りますので、5月7日以降の本県の対応についても、お示ししたいと考えております。

N H K ということは、今のところ5月7日からの再開は難しいかもしれないという御認識ですか。

教 育 長 〔5月7日からの再開は難しい〕という判断もあるかと思えます。なかなかこれも予想が、日々刻々と変わっておりますので、再開できるともできないとも今のところ申し上げられませんけれども、状況的には厳しいものと思っております。

N H K できるだけ早くお示しするとおっしゃったと思うんですけども、いつ頃までに〔判断を〕示したいなというお気持ちですか。

教 育 長 これにつきましては国の動向もありますので、今、この時、この日ということは申し上げられませんけれども、学校自体もゴールデンウィークでお休みになりますので、いろいろ準備もあるかと思えますので、できればゴールデンウィークの前には、できるだけ早い段階で進めていきたいなというふうには思っております。

N H K そうすると、来週の早い時期ということですか。

教 育 長 そうですね、これも関係部署とですね、それとこちらについても専門家の御意見もやはり頂きながら、慎重に判断していきたいと考えています。

N H K すみません、もう一点、その再開の判断基準なんですけれども、先ほど言われたように感染拡大の状況と専門家の意見と、という2点が大きいですか。

教 育 長 はい、そのように思っています。特に県内の感染状況と、それを踏まえた感染症対策という観点での専門家の御意見を踏まえていきたいと思っております。

朝日新聞 先ほどおっしゃった学習機会の確保という点で、今学校が休業中で、特に県立学校においては、ICTを使った学習機会の確保というのが進んでいるところがある一方で、そういったICTの機器が十分でないところも現実問題あると思うんですが、その辺り、学習機会という意味では濃淡が出てしまっている状況があるのかどうかの現状での御認識と、その辺りを今後埋めていく上でですね、県教育委員会としてどのような方策を取っていかれたいか、その2点をお聞かせ願えますか。

教 育 長 広島県におきましては、各学校におきまして各教科の課題のやり取りにクラウドサービスを活用したり、各単元のポイントを教員が解説する動画を今一所懸命作って、配信したりするなど、休業中の生徒の学習支援を行っているほか、毎日の学習面だけではなく健康観察とかアンケートでですね、なんとかつながりを付けようということで、〔各学校で〕

工夫を凝らしていただいているところです。これにつきましても、確かに今まで一人1台というのを35校については1年生で実現しようと思って、昨年度からやってまいりましたけれども、全ての学校ではない、ということもありますし、全ての学年でもない。それと、小中学校についてもどうかということで、なかなか厳しい状況はございます。県立学校につきましては、全ての子供たちに、クラウドサービスが使用できるように、IDを発行しまして、今それを活用すれば、まだ全部の学校ではないかもしれませんが、今準備を進めていたり、あるいは実践をしている学校もありますが、やはり始めたばかりなので、まだまだいっぱい課題はあると思っております。これにつきましては、市町立学校につきましても、全ての学校でICTを、ICTというのは、これは何も皆さんがお持ちのPCだけではなくて、場合によっては4月21日に文部科学省からも通達が出ましたけれども、御家庭でのスマートフォンとか、あるいはPC、いろんな形でそちらも活用していきながら、というかお願いしていきながら、なるべく生徒と何らかのつながりを絶つことなく、できる限りのところでできないかなと思っております。県の調査でも、どうしても持っていない生徒、スマートフォンもPCも持っていないという生徒がいます。ここにつきましては、ICTを使える生徒と、もちろん差がないような形で先生方に電話をしてもらったり、あるいはプリントを配ったり、いろんな方策で手厚く学習が遅れることなくやっていければというふうに思っております。先ほど申し上げました市町立学校のICTを活用した学習支援サービスの件でございますけれども、県の主導で、市町教育委員会の協力を得ながら、児童生徒のアカウントを取得するなど、具体的取組を今後進めていきたいというふうに思っています。

朝日新聞 それに関連してなんですけれども、学習機会の確保と同時に、この間、年度末から休業になって、年〔度〕始〔め〕も休業になって、生徒の心のケアの問題、その辺りについて例えば、現状何か御認識を持たれているところがあれば、どのようにお考えでしょうか。

教育長 学校に行きたくても行けないということで、あとお友達とお話をしたいのにお話ができないということで、児童生徒の皆さんにはある種苦しい思いをしていらっしゃるのではないかと察しています。こちらにつきましては、〔新型〕コロナウイルス〔感染症〕との向き合い方ということですね、感染リスクということと、それとは別に学習機会の確保と心のケアという、その二つがあると思っております。それと不安というのがあるんですけども、これはロジカルではないので。どうしても不安だという人は不安です。感染へのリスクと、それと学習機会の確保と、それから心のケアというのを、相反するものがあるというふうに思っています。本当に感染したくないということであれば、仕方がないので家から一步も出ないし、家族みんなが出ないという状況を作り出していかなければいけないんですけれども、日本の場合、海外のようなロックダウンという形にはなっていませんし、ある種、外にも〔出ないように〕自粛は要請されているものの、出ることができるような状況であると思っております。ここについては、今の状況で子供たちの心のケアをどうしていくか、そこはやはり何らか学校とつながっている、例えば先生からの一本の電話とか、あるいはクラウドサービスを使ってちょっとみんなで朝学活とか、クラウドサービスでみんなが映るようなもので、友達の顔が少しでも見えたり、あるいはチャットをやったり、そういう機能が付いていますので、少しでもつながっているという感覚がなくならないようにしていきたいなと思っております。今後はこちらについては、様々報道でも言われております、家庭の中で起こる虐待の問題とか、様々こういう問題もフィーチャーされることになろうかと思っておりますので、ここについては、今までは集団の中で見てきましたので、家庭の中に入って、どこまでできるかということとは分かりませんが、様々な方策についても考えていきたいなと思っております。

朝日新聞 すみません、あと1点、一番最後に「様々な方策」ということで、具体的にはこれから
かもしれませんが、学校のカウンセラーとかと電話、もしくはオンラインでつない
で、相談窓口を作るとか、その辺りについて、何か検討されていることはございますか。

教育長 例えば、感染の拡大状況にもよりますけれども、場合によっては心配な生徒は自主登校
という形で〔学校に〕来てもらったりとか、あるいはこれも感染の状況次第であったり、
いろいろ心配がありますけれども、やっている学校は、家庭訪問などもしていると伺っ
ています。様々ウイルスとの戦い方で難しい点はあるんですけども、先生方も一所懸命ど
うにかして乗り越えられないかということでやってくださっていますので、県教育委員会
といたしましても、あらゆる方法を考えて学校に提案、あるいは指導・育成していきたい
なと思っています。

中国新聞 学校再開の関連で1点質問です。再開する場合に目指す姿というのは、全面的な再開な
のか、状況によっては自主登校を拡大するような形での段階的な再開というのもあり得る
のでしょうか。

教育長 今のところ、これからの〔感染〕拡大状況とかが未知数なところがありますので、これ
が理想、というのは言えませんけれども、少なくとも2月までに行っていた、全員が普通
に学校に来て、ということはすぐには難しいだろうなというふうに感じています。それは、
感染状況もそうですし、専門家の御意見、それから各家庭での御意見ということもあろう
かと思います。この不安状況については、やはり発達段階で小さいお子さんをお持ちの方
には絶対外に出したくないという気持ちもあろうかと思いますが、学習機会よりも、外に
出ずに感染のリスクから、絶対にゼロ・トレランスではないんですが、絶対にかからない
というふうに思えば、そういう御判断もあろうかと思います。そこは十分に理解できます
ので。その中で、まさに個別最適をしていかなければいけないかなと思っています。いつ
この〔新型〕コロナウイルスの様々なワクチンができるか、解決策が見いだされて私た
ちの生活も、元には戻らないかもしれないけれども、ある程度、人間は社会性の動物と言
われていますので、やはり仲間といろいろ話したりとか、コミュニケーションを普通に取
れたりという状況がいつ戻るのかなというふうに私も思っているんですけども。子供に
とっても、社会性を身に付けるというのは、成長過程の中で大変必要なことだと思います
ので。どこかで方策を考えて、それがインターネットという方法であっても、やはり双方
向の何かをすることか、非常に重要なことだと思いますので、とにかく方策を考えてやっ
ていきたいと思っています。理想については、今のところ「こういう状況」というのは申し上げ
られないんですけども、とにかく〔新型コロナ〕ウイルスと長く付き合っていくしかな
いかな、というところですよ。

HOME 5月6日まで臨時休業ということなんですけれども、これから徐々に状況次第によって、
〔休業が〕延びたり自主登校になったりということだと思んですが、現時点でお答えで
きればという範囲でいいんですが、いつまで〔休業が〕延びてしまうと、課程というか、
単位というか、そういったものに支障が出てくるとかそういったものは何かあったりする
のでしょうか。

教育長 文部科学省によりますと、今のところ通達で、家庭学習で授業時数についても振り替える
ことができるといわれていますので、これが例えば、この日までだったらいいけどこの
日からは授業時数に振り替えられないということはないと思います。あとは、その中で、
県教育委員会として、何ができるかというところを考えていくことが一番重要なことと思
っています。

N H K 確認なんですけれども、感染状況によるんですけども、〔学校が〕再開できるように
なったら、一斉にではなくても、分散登校とかいう感じで、ちょっとずつでも、できると

ころから再開できたら、ということでしょうか。

教 育 長 これも感染状況と専門家の判断にもよるんですけども、全く学校に登校させられませんかという方もいれば、家庭の状況とかで、外に出なければいけないけれども、もしかしたらそこには感染リスクがあるかもしれないけれども、学校に行かせたいというようなお考えもあると思います。そこについても様々個別最適にやっていく方法というのがあると思っていて、感染状況を見ながら、なるべくそこに応えられるようにしていきたいなと思っています。特に心配しているのが高校でしたら高校3年生、中学校だったら中学3年生のお子さんたちです。やはり最終学年ということもあって、その先の進路ということが、本人もそうでしょうし保護者の方も御心配だと思いますので、ここについては何とか御心配が少しでも減らせるような方策が打てればなと思っています。

N H K 今回の段階では夏休みを短くするとか、そういう話にはなっていないのでしょうか。

教 育 長 夏〔休み〕についてもまだまだ先なので、そのときの感染リスクがどういう形になるかにもよると思いますし、それまでも学校の休業状況であったり、場合によっては自主分散登校というのが可能になっているのかという状況にもよると思いますので。今の段階ではまだまだ夏休みまでは、5月7日以上に予測が立てられないかなというところですよ。

中国新聞 再開に向けての方針を立てるのは、基本的には県の〔新型〕コロナ〔ウイルス感染症〕対策本部員会議の議論によって決めるという流れになるのでしょうか。先ほど感染症の専門家の話を聞くというのは県教委独自にそういう議論をして、県全体のコロナ対策の方策の中に反映するのでしょうか。

教 育 長 教育委員会としても専門家の方に聞きますけれども、最終的には知事がお決めになることだと認識しております。ただし、教育委員会といたしましても、やはり「餅は餅屋」ですので、専門家の御意見等も考えていながら、教育委員会としての考えをお伝えはしていきますけれども、最終的にお決めになるのは、湯崎知事だと認識しています。